

令和元年度 第4回社会教育委員会会議録

開催日時 令和元年11月12日(火)午後1時30分～

開催場所 恵那市役所 西庁舎4階4A会議室

出席委員	委員長	林 達夫
	副委員長	磯部 彰
	委員	曾我 隆
	委員	山内 正一
	委員	山田 恵市
	委員	鈴木 正司
	委員	森川 伸江
	委員	遠藤 茂樹
	委員	田口 容子
	委員	各務 周和子
	委員	水野 宏昭

説明の為、出席した社会教育委員会事務局等

生涯学習課課長	鷹見 健司
生涯学習課係長	荻山 勝
社会教育指導員	遠藤 滋
社会教育指導員	堀 春美

議 題

1. 令和元年度第2回～3回会議録承認
2. 第50回東海北陸社会教育研究大会(報告)・交流
3. 令和元年度塾長会・主事会視察結果報告・交流
4. 三学塾塾長について
5. その他

閉 会 (午後3時40分)

議題1 令和元年度第2回～3回会議録承認

令和元年度恵那市社会教育委員会第2回、第3回の会議録が承認されました。

議題 2 第 50 回東海北陸社会教育研究大会（報告）・交流

事務局

10月10日(木)から10月11日(金)の日程で三重県総合文化センターにおいて、第50回東海北陸社会教育研究大会が開催されました。恵那市は委員の方5名に参加していただきましたので、参加された方から報告をいただきたいと思えます。はじめに、家庭教育支援分科会に参加された委員様をお願いします。

委員

一番印象に残ったのは、社会教育委員というのは自分のできることをできる範囲でやればよいと言われて、何をやればいいのかと今まで3年間やってきたが何かできたのかなと思いました。自分でできることを探してやらなければいけないと感じました。

委員

市町によって温度差があるなど感じました。様々な会議を行っておりその会議の意義や重要性はあるのだけれども、そこから一步踏み出して行くことができていない。この会議も2ヶ月に1回行っているが、その中で焦点化していかなければいけないと思えます。

事務局

続きまして、青少年の健全育成部会に参加された委員様をお願いします。

委員

印象に残っているのは、分科会の中で2つの提案があった後に円卓形式でグループ討議ができたのが良かった。発表については、いなべ市の小川さんは社会教育委員でありながら青少年に携わる仕事をしていた方からこういった活動をしてみえたという話をしていただき、愛知県の方はどちらかというところのジュニアリーダーみたいな子ども会を指導する取り組みをされました。内容的にはどこでもやっていることだなと感じました。

事務局

続きまして、地域の活性化分科会に参加された委員様をお願いします。

委員

ふたつ発表がありましてどちらも地域の活性化のためには高齢者を取り込んでいくことが大事だということでした。その中にも課題がみえてきて、参加者の固定化、行事の集中化、役員のなり手がなく、という3つの問題が出てきた。その先が

なく少し物足りなく感じました。今後どうしていくのかが研究じゃないかと思いましたが、なかなかその先に行けないという発表でした。三重県では老人クラブに入ってくれる人が少ないので、まずは入ってもらう工夫からはじめたという発表でした。

事務局

続きまして、社会教育委員の役割と課題部会に参加された委員様をお願いします。

委員

二つの発表があり、1つは川北町という小さな町の発表でここは町民会議が中心となって子どもサミットなどを行いどういった町を作っていこう、変えていこうという発表でしたが、社会教育委員もその中のメンバーということでしたが町民会議が中心となって子どもたちを育てていこうという発表でした。二つ目は鈴鹿市の発表でしたが、社会教育委員長に初めてなったが何をしたら分からないので、そのことについて自分の体験談を話されました。市町によってメンバーも違うし、年間何回やるかも違っておりさまざまであると感じました。東濃地区が一番オーソドックスかなと思いました。社会教育はその地域の特色・実態に併せて活動がなされていくと理解しました。だから、乳幼児から老人までの教育、生涯学習を進めていけばよく、活性化していくにはどのようにしたらいいかを考えていけばいいのかなと思いました。

議題3 令和元年度塾長会・主事会視察結果報告・交流

事務局

第2回、第3回の議事録にご意見等を掲載しましたが、ご意見などあればお願いします。

委員

交流をすることで情報を得ることができ実態を知ることができました。まず知るところから始まって行くのかなと、だから地域によって特色があるので自分たちの活かせるところを真似して、何か響いていけることに繋げていけるといいのかなと思いました。

委員

全体としては、学校とコミュニティセンターの繋がりをどうくっつけていくのかその難しさや必要性という話題はあったかと思います。変に一生懸命になっても学校が困らないかと思いました。だからといって何かしないと塾長として困るのではないかと思いました。

事務局

東海大会の公民館大会は塾長さん達に参加していただき刈谷市まで行ってきました。当市の発表は、県大会の時から少し手直しをして行いました。質問もたくさんいただきその回答も聞いている方には勉強になったのではないかと思います。分科会の中では一番大人数で250名の方が参加していました。助言者の先生がこれからはコミュニティスクール(学校運営協議会)や地域学校協働活動の取り組みのキーになるのは公民館で重要な役割をしていくのではないかと言われました。

委員

今回は発表がメインとなっていましたが、みんなでそれを聞いたり、知ったり、内容を理解したり、そしてあとは聞き手の立場に立ってどうするかをみんなで考えていくと分かりやすいものができてくると思います。

委員

地域ごとに思いを持って活動を行っていることが分かりました。それぞれ実態や実情に合わせて頑張ってみえるんだということが分かりました。みんなで交流すると同じ課題でも地域によってアプローチの仕方に違いがあって参考になるのではないかと思います。関の研修会の中で助言者の言われたことですが、イベントをやる時にマニュアルを作る、しかしマニュアルを作るとマンネリ化してしまうといわれていました。あとはPTAのOBを活用するといいいわれていました。今までの経験やネットワークなどを活かして助言やアドバイスなどをしてもらうと地域のためになると話されました。

委員

話を聞いていて思うのは、地域、公民館ごとに特色のある取り組みをしている、工夫しながらやってみえて笠置についても、ああやってまとめていただくと地域の特色を活かしながら子どもたちも参画しながら取り組んでいると思いました。それぞれの地域の課題があって、持っている特徴が成果となる部分もあれば、課題となることもあります。参加する側として課題意識をもって、アイデアをいただきたいと思いました。こういうことについて他の地域ではそうしているか知りたいし、課題別というか、ある程度方向性を持たせた会議をしていくと参加された方がお土産を持ち帰れると思います。これまでの地域ごとの特色があると思うので、グルーピングについても考慮してもいいのかなと感じました。

委員

よその大会は欠席して場の雰囲気も知らないなので、もうちょっと勉強させてもらわないと意見すら言えないところです。

委員長

社会教育について十分にはわからないと思いますが、参加してもらって意見を言ってもらえると、自分自身にも勉強になるし地域にも広がっていきます。同じ意見ばかりでなく、違った角度からの意見もお願いします。

委員

最初の主事会しか参加していないけれど、皆さんの話を聞いていると、すごく変わってきてよかった。一度笠置を見てみたいと思いました。

委員

塾長会は参加できなかったのわからないのですが、前、笠置のコミュニティセンターが作ってくださったのはよかった、これがどんな風変わったのか見てみたいと思いました。

委員

皆さんが言われていた塾長会議、主事会、どこの地区も一生懸命やっています。できるかできないかはあるけれど、「どこの地区でこんなことをしているから一緒にやってみてはどうか。」という発想はできないだろうかと思いました。自分のところだけで一生懸命やっているが、マンネリ化と言われた時に、たとえば隣の町とやると又違ったことができるのではないかと思います。これは難しいことだとは思いますが笠周の方でもできるし、恵南の明智・山岡とか 2 つくらいで組めると面白いと思います。一生懸命努力されているのは十分わかっているけど、そういうのがあってもいいのかなと思いました。

委員

私たちが見て非常に活発である地域と、そうでない地域があるけれど、塾長さんの会議や主事さんの会議に出席しまして、非常に活発である地域の方は自信を持って見える雰囲気がありました。発言にしても、こんなことをきちんとやっていると言うし、大きくてまとまりがないと言いますか、そういう風に見える地域の方は何をやっていっているのか手探りの状態で進めているような雰囲気でした。それをどうしていけばいいかは言えないですけども、感想を述べさせてもらいました。

委員長

地域性があって地域としての良さと課題がある。長島・大井はコミュニティがないのでやりにくいんじゃないかなと心配ですけど、塾長会の時でもどうしたらいいのかと悩んでいた気がします。大きいところで一人の塾長さんが両方やってみえる、それでいいのかと考えます。施設は一緒でもいいけど、長島は長島で、分か

れて塾長さんがいないと、充実させようと思うと、長島と大井は特性が違う、地域性が、一人の塾長さんに任せてしまうと、というように私は思いました。予算とかもいろいろあると思うけれど、今後検討する必要があるかなと、塾長会に出ていて思いました。

議題4 三学塾塾長について

委員長

本日のメイン、塾長について進めていきたい。資料最終ページ。スケジュールの通りまとめて、来年1年間やってみる、そして再来年は地域課題についてやってまとめてもらいたいと思います。コミュニティセンターの三学塾の充実を図っていくことが大事でないかなと思います。昨年度も言いましたが、塾長さんが何をやったらいいかかわからないまま、塾長になっている人がいると思う。その辺を明確にしていきたいと思います。

【P14 スケジュール確認】

【P7 説明】

この説明は資料であり理解していただいて、事務局から塾長さんへ説明してもらいたいです。

【P11 アンケート説明】

三学塾長の役割とは、恵那市全体の共通の活動は、を明らかにし、プラスアルファとして地域の特色を加えてほしいです。

記述式の回答を元に、塾長会でまとめたものを話し合ってもらい、話し合うことによって共通化されるので、それを元に、社会教育委員会でプラスアルファをつけてもらい、最終的に教育長への提言までもっていきたいです。

資料の中に塾長の役割、やらなければいけないことをヒントとして書いたものがあります。何か意見等ありませんか。

委員

ここにいるメンバーが曖昧なまま塾長会へお願いして、提言するということが一番いけないと思います。

資料の最後にコミュニティスクールと出てきて、一番たくさん書いてあります。このあたりをやれと言うことかと思いますが。提言の必要性和所在を社会教育委員会が共通理解しておく必要があります。①恵那市全体の役割と活動を塾長さんが明確にしたい、②それぞれの地域で大事にしていることの継続を図りたい、この2

本の柱が軸で、こういうことをするためにこの提言を社会教育委員会は行いますという理解でよろしいでしょうか。

委員長

新しく受けた塾長さんは何をしたいかわからないと言っておられました。しかし、役割について説明しながらやってきてもらい、今は自信を持ってやっています。受けた時は引き継ぎしたが十分にわからないまま、何でもいいのでやればいいと言われていました。何をするかははっきりしていなかったから仕方がないと思います。

委員

質問。長い間西中の学校協議員をやっていたけれど、私は運営協議委員のときにやめて、次の人が運営協議会の委員として入って、体制が変わる時でした。学校評議員は校長から電話がかかってきて頼まれたが、運営協議会は評議会よりかなり重いのではないかと、校長と地域を結ぶものとするならば、地域を代表する人でないとなつてはいけないと思います。校長と対応できる人でないといけないと思うが、選び方はどうなっていますか。

委員長

学校が決めています。

委員

市教委から示されています。PTA 会長、PTA 本部役員、区長とか、役職は同じになっているはずですが。継続になっているところもあります。

委員

大事なものは人。社会教育委員でも頼まれたけど、役割や活動内容を知らなくて、手探りでいろいろやらせてもらってわかりかけてきました。どこかで何かをやる人が必要とわかってきました。役を受けるときは、この部署からとまんべんなく選んでいるけど、人脈のような繋ぎやすいところがあつて、頼む時は「重責ではないですよ」という感じだけれど、教育長さんが言うとおりに、学校運営協議会委員は評議員のように軽いものではなくて、人事まで言える重要なポジションです。再任の人とか、賃金の格差とかも踏まえて、いかにその人を人選していくか、人選する時のモノサシというか、校長先生は信頼しているけれど、校長先生の采配だけでこれだけのものを担えるかだと思います。埋もれている人もいるから、偏っていることもあります。若い人は、子育てもあるし、家庭教育も必要だよというけど、どっぴり意見を聞けていないです。教育は人です。コミュニティスクールをやっていないと、これからは学校だけではできない教育をつけていかないといけないので、重要

だと思う。しかし、「コミュニティスクールもこれまでの評議員だよ」という学校もあるが、教育長は「評議員なんてものでない、格式のある人だよ」と言うけれど、まだそこまで選びきれていない。この資料はよくできていると思うが、そこまでわかってやっていくこと、やってみる。人選は重要です。

委員

コミュニティスクールについて申し上げたい。十数年前に多治見市の小学校が1校手を挙げた。岐阜市では、金華小と京町小が岐阜小に統合されるなど、多くの学校が再編された。いくつかの町が一つの学校をおらが町の学校であるとの意識の高まりが必要となった。塾長やコーディネーターは、どんな内容をどの程度、運営協議会で行うのかによっても異なるが、岐阜市では立ち上げの3年間は教頭中心にかなりのエネルギーを要したと聞いている。うまく機能するようになったのは、社会教育の主事をやっていたり、学校教育についての広さを経験していたり、地域の信頼ある人が中心の役割を担って動き始めた4年目頃という話も聞いた。恵那市は、コーディネーター役を塾長が担うとすれば、各振興事務所の人員配置や人数も異なることから、内容と程度によって負荷がずいぶん違うのではないかと。しかし、今までの教育の積み重ねで地域によっても異なるが、仕組みは違っても基盤はできているところが多いと思う。運営協議会が、提言の出口ならば、塾長は忙しくなるが、前に話した二つの市とは違う。三学のまちづくりについて役割は書いてあり、学校や地域の特色や人材、地域性も違うので、もし自分がやるとしたら、かなり専念しないとできないと思う。

委員長

笠置は中学校を考えないと、小学校で言うと久須見と笠置と、地域が合わさるので、両方の地域の代表を呼ばなければいけない難しさがあるが克服していかないと。もうひとつは、地域ごとに学校地域協力活動委員会を作らないと、地域のメンバーだけでないと、協力体制ができません。推進協議会長を中心とした協議会の中に組織化するくらいのことをしないと、町として協力していきません。

委員

コミュニティスクールを限定するといろいろあります。別の役職で中野方小も飯地小も北中も行って話をしました。それぞれに地域協議会の会長さんも塾長さんもいる、小学校は地域に根ざした活動が機能していきそうだと話をしていました。北中は先進校としてよくやっておられますが、コミュニティセンターとか塾長ということになると、小学校とは違い、3地域が集まるので別の悩みを持っていると感じた。

委員長

塾長がコーディネーターをやるに関わらず、コミュニティスクールの委員にならないと、コミュニティセンター活動と関わっていけないと思います。

事務局

将来のことを考えると、塾長さんは事務局的な立場でつながりを持って、実質コーディネーター役は専門家の人を依頼していった方がいいのでは、それをお願いするまでの間、塾長さんにやってもらってはどうかと私は思っています。塾長さんが運営協議会に参加していないところは、市民会館、大井、長島、中学校にも参加されていません。東野は今年度入っていなかったが、来年度から入ります。塾長が運営協議会メンバーに入る予定です。

それぞれ学校でどんなことをやるかということは、今までも地域の人がいっぱい入ってやっているし、中学校では職場体験とかやってるし、放課後子ども教室は学校と離れた関係で文科省・県から補助金をいただいて放課後の子どもたちを月に1回小学校で、やってないところもあるけれど、これもそういった活動に含めているんな方が関わってくれるといいです。中学校の未来塾、子どもたちに勉強を支援していくとか、それぞれやっていることを束ねて地域のみんなで理解しながら地域の子どもたちを育てていくという考え方、そう難しいことじゃないけど、それを束ねることがエネルギーのいることだと思います。

委員

塾長さんは次年度から運営協議会のメンバーに入るのは成立していますか。

事務局

塾長は入れてくださいと学校長に頼んでいるが、大井小・長島小は入っていません。学校長が入れないと判断した理由はわかりません。

委員

西中・東中だけでも無理なのか。

事務局

校長がどういうふうになっているのか、つかめていません。

委員

そうすると、提言やアンケートというのもコミュニティスクールをそんなに強く打ち出さなくてもいいのではないのでしょうか。

委員

要は説明していかないと、塾長さんはわからずに運営協議会の委員になるとい
かんもんで、こういう背景がある、こういう趣旨で運営協議会ができています、地域
と関わる人としてメンバーに入ってくださいということです。

学校経験者は難しいような気がしますけれど、コミュニティスクールが今年新
しく入ってきて、ここまで深く考えたことがなかったので、今まで学校からの協力
依頼は、学校から直接個人にいていたのを、これからは、学校から地域の協働活
動委員会の方へ願います、要はコミュニティセンターへ頼めば関わってくれる、
というのが将来像です。来年は今までのつながりもあるので、やっていけるところ
はやっていけばいい、新しく発掘していくとことか、徐々に変えてい着たいと思
います。いっぺんには変わらないと思うが、目標の姿へと変わっていきたいです。

委員

塾長さんがコミュニティスクールの一委員として入るということですか。今の
コミュニティスクールの委員の人数は決まっていますか。

事務局

決まっていません。

委員

人数は決まっていないなら、今 10 人のところ 11 人にしてもいい。順番にと
か言う必要はないのではないかと。

コミュニティスクールの委員になったら当然、その背景とか学校長から説明も
入るし、「自分がなぜ委員になったか」とか考えるし、そこまで深く考える必要は
ないと思います。

委員

地域性はあって、中心部の東中、西中、大井小、長島小は塾長との関係が築けて
いないが、周辺部は振興事務所もくっついてやれています。地域差が大きいなと感
じています。学校の運営に関して地域の代表者に知っていただいて、地域の方
へ発信していただく役割は塾長さんをお願いをしたいです。今までの学校だけの
パターンから地域に軸足を移しながら、軸足を移すための役割を地域の代表とし
て塾長さんが必要なのかなと思います。地域によって違いがあるので、一律にが
ちっとやるのは難しいと思うが、方向としては、やっていかないといけないと思
います。

委員

学校の先生と話したが、運営協議会に携われる地域の人には長くやっていただ

ける人にやってほしいです。塾長さんだけが数年でころころ変わっていくのがひっかかります。運営協議会としてどうなのかなと思っています。

事務局

組織の話をさせてもらおうと、各振興事務所のセンター長が地域のトップ、この職員は管理職、私と同等です。塾長というのは1年雇用の更新ありきという身分が不安定なところの中で、私たち社会教育委員会と事務局は今後のテーマとして、塾長さんを地域づくりの核の人物と言うことで、ストーリーを持って、地域の核になる人物になってほしいなという思いで、動き出したところと認識しています。社会教育委員会としてこういうテーマで今後取り組んでいくんだと言うことを皆さんの意見で、一致はしないであろうが、テーマを持って進めていくと教育長へ提言してもらおうのがスタートじゃないかなと、やり続けていく中でも組織は変わっていく、どこか根付いていく仕組みを、私たち事務局は意識を持って地域に下ろしていかなければという思いで私はいます。いきなりコミュニティスクールが出てくるというのは、恵那市の社会教育は今後これにシフトしていこうということなので、私たちは責任もって、恵那市の社会教育のテーマはこれなんだと、私が異動になっても推し進めていくと示していただいたのはありがたいと思いました。

委員

私たちの立場は、諮問されたことについて調査研究したり、提言書にまとめたりする会合をするのかということが、教育委員会事務局の方針で息の長いスパンでできるようなら理解できます。

委員長

事務局が諮問し、社会教育委員会が提言しましたとなるとやりやすいと思います。

事務局

制度上はそういうものだと思います。

教育委員会はこちら考えているけど、先生方はどう考えているのか諮問し、ご提言いただければ、それを参考に今後の施策に、できる限り反映させていただく、それが行政と委員会が一番いいところだと思ってきました。

委員長

と、課長さんが言ってくれましたが、私たちはその諮問を受けてやっていることを確認しました。

事務局

本当は教育長から諮問がなければいけないが、この件に関しては本当にお世話になりました、というのが本心です。

副委員長

塾長の仕事は「こういうものだ」と型にはめず、「こういうものじゃないか」という含みのある中で、できる範囲でやっていってもらえるといいなと思います。これだけやらないかんと、というものではないと思います。わからない初めての塾長さんが参考にして、「これはできる」「ここはもう少し先にやろう」とか含みのあるものをつくれたらいいと思います。

委員長

ここに書いてあるように、文化活動、文化教育活動に焦点をおいて塾長さんはやってくださいと書いています。地域の市民講座も塾長を中心にして、地域の特色のある活動を内容に入れればいいし、地域課題について検討してやればいいです。まちづくり全体というより、要は地域住民の文化とか教養とか歴史とか、文化活動的なことをやっていくという仕事ですよ、というおおまかなことだと思います。

今まで公民館長はあまりにも幅がありすぎて、やらなあかんことばかりなので、塾長さんは焦点を絞ってがんばってくださいとなればいいと思います。

まちづくり全体についてはセンター長がいるので、そのセンター長の指示に従って、やらなければならないことを協力してやればいいし、塾長が中心にやることは、社会教育活動です。幼児から老人までの教育活動、生涯学習に焦点を絞る、そんな提言ができればいいと思います。よろしいでしょうか。

委員

詳細が明確になって、安心してやってもらえればいいと思います。

塾長会となったのはいつからですか。

事務局

平成 28 年、公民館長から「三学のまち推進委員」に変わった、1 年だけです。年 5・6 回会議をして、事務局は生涯学習まちづくりセンターが文化センターになりました。1 年やったけど、「三学のまち推進委員はおかしいんじゃないか」となり、平成 29 年から塾長、塾長会を 2 月に 1 回やっていました。まだ新しいです。

大井、長島の話をする、長島は中央公民館に館長がいて、館長が塾長みたいな役割をしています。地域三学委員会とか青少年も館長がやっていたが、28 年度からは大井振興室、長島振興室の市の職員が館長のやっていた仕事をやられました。学校とのつながりが離れてしまいました。そのまま来ています。その後、2 つの振興室がやっていたことを、市民会館の塾長が一人で二つを受け持っています。元々

館長がやっていた頃は多少つながりがあったと思います。

委員

その流れからするとわかる、今日の提言については、時期としてよいと思う。

委員長

それぞれに塾長がいた方がいい、なんであんなっているのか。

生涯学習課の中で話し合ってもらいたいです。社会教育委員からつきあげがあったとあって、実際、長島、大井の人たちは困ると思います。将来コミュニティスクールをやろうと思ったときに、一人の塾長に負担がかかりすぎてしまうのではないのでしょうか。

委員

まだ把握し切れていないので、個別で教えてもらいます。

委員長

いろいろ聞いていただいて、経験しながら、少しずつわかってくると思います。みなさんも1期で終わらず、続けてください。異議かなければ、これで進めてください。

事務局

8日に東濃社会教育推進協議会理事会担当者会がありました。多治見の研修会の事務局をやっている組織ですが、来年度の話があって、東濃地区の社会教育推進協議会の研修会の会場が瑞浪になります。それとは別に平成25年にスタートした3年に1度の東濃地区の社会教育振興大会、これはPTA関係者、学校関係者もあわせて150~200人程度、おとし恵那でやりましたが、恵那市の子どもフェスタの取り組みを発表してもらっています。来年度、社会教育研修大会では、社会教育部門のところで提案をします。10月に県の社会教育推進大会が各務原であるが、恵那市で提案をする順番です。おいおい内容を検討します。

たとえば、放課後子ども教室を発表してもらってもいいし、コミュニティスクールの中のひとつとして全国的にやっているけど、恵那市は単独でやっています。私の思いは放課後子ども教室の取り組みをみんなが理解して、もっとたくさんの方が関わっていけるようにしたいです。地域の中で「子どもたちをみんなで育てていく」という風になればいいと思います。

委員

放課後子ども教室ってなんですか。

委員

私は、大井小と大井第二小で、月に1回放課後に1～3年の希望者で、年に12回ぐらい1時間ぐらいの活動をしています。

最近、お寺でおっさまの話と座禅をしました。あとはタオルでぞうきんを縫って、体育館でぞうきんリレーをしました。北小はカヌー教室とか、地域によってやることは違っています。岩村は田植えとかやっています。

事務局

学校ではできない体験を地域の人に教わりながらやっています。年度当初に保護者に説明して登録してもらって、2～30人、多いところでは4～50人います。

委員

大井47人、大井第二40人、学校によって人数も学年も違います。

事務局

文科省の資料を見ていただくと、放課後子ども教室は、放課後授業が終わった後に、子どもの居場所を確保してくださいというのがあります。今、学童保育があるお金がかかります。お金がかからず国の補助金を使ってやるのが放課後子ども教室です。生涯学習課でやっているのが放課後子ども教室、学校教育課でやっているのが地域未来塾、これが同じ部類になります。学校の放課後、空き教室を使い子どもたちの居場所を作ってくださいと国が推奨しています。恵那市の場合、三学のまち都市宣言の関係で、やることを「学び」で行こうとなっています。他市は「居場所」だけとして、図書室で本を読ませるだけ、学習のプリントをやらせて毎日やっているところもあります。しかし、それでは学びがないので、恵那市としては学びをつけるように、縫ったり、座禅をしたり、子どもたちに学習をしてもらう内容を行っています。

委員長

恵那市は先進的だね

委員

私は、長島に行ったことがあります。

事務局

長島は、コーディネーターがやめてしまい、現在休止中になっており、コーディネーターを探しています。

委員

13年くらいやっています。

委員

大井小、大井第二小は年に2回、土日を使って地域の人とふれあう活動をしています。今年は5月にレクリエーション、12月1日にしめ縄づくりをやる予定です。大井町のこども園の幼児が参加し、東中はボランティアで来てくれます。

事務局

生活学校に入ってみえる高齢者女性がサポーターとしてお手伝いしてくれています。

委員

コーディネーターの交流はありますか。

事務局

年4・5回コーディネーターの会議をしています。来年は、よその校区の活動に、参加できる人がいれば参加していこうと言っています。

委員

カヌーを地域対抗とかで大々的にやっていけたらいいが、難しいかな。

事務局

オリンピックの誘致もしたので、順番に活用しながらできたらいいと思っています。

委員長

人数が少ないから、増えたらいいなと思います。

委員

青少年市民会議では新聞を作っていて、ぴかっと光る中学生を見つけてきて広報で出しているが、こんないい活動をしているならもっと新聞出してくれたらいいと思います。そんないいことやっとなら手伝いに行こうって人が出てくると思います。

事務局

北小のスケジュールを鈴木さんに伺いたいです。

委員

北小3年生、ゆずもぎやりました。NHKも取材にきていた。ゆず組合が指導しながらやっていました。

委員

それぞれ地域でやっているから、発表することは山ほどあると思います。

5. その他

事務局

第5回社会教育委員会は1月28日（火）午後1時30分～ 市役所西庁舎3階災害対策室。第6回社会教育委員会は3月6日（金）改めて通知を出しますが、出席をお願いします。

終わりの挨拶

副委員長

先般の県大会、東海北陸大会に参加して社会教育委員の発表がたくさんあったが、その発表を聞くと、なんて仕事が多いのかと思った。一人で画策しているところもあるが、みんなで一緒にやっに行かないと問題は片付いていかないと思った。今日の話聞いて塾長さんの仕事でも悩んでいる方も見えるので、みんなで「こんなことをやっていくのではないか。」とい

うことで、方向をみんなで考えていくことを念頭に置いて、この委員会も今後、進めていけたらと思っている。今日はご苦勞様でした。

午後3時40分閉会

令和元年11月12日（火）

社会教育委員 林 達夫

社会教育委員 磯部 彰